名瀬小だより
10月号

学校教育目標
自分や相手を大切にし、
自ら考え行動する名瀬っ子

令和４年９月３０日
横浜市立名瀬小学校
校　長　　中嶋　孝宏

小さなワクワクを生活に

校長　中嶋　孝宏

天候が不安定な日が続いた9月。暑い日や逆に涼しく感じる日もあれば、台風などの影響もあり、生活のリズムを作りにくい日が続きました。その中でも、子どもたちはその日その日を大切に過ごしていました。先月の朝会の「考え、調べる」という話の中で、毎日の授業などで「これはどういう意味だろう。」「この課題にはどのように取り組めばいいだろう。」など自分なりに考え、調べてみてほしいと伝えました。「ロイロノートで調べてノートに書く」「自分の考えをノートに書き、授業の終わりに振り返る」など、学年の実態に応じた「考え、調べる様子」が見られました。子どもたちは、教師や仲間と一緒に過ごしている中で成長し続けています。そんな子どもたちをたくましく、頼もしく思います。先生や仲間が話した言葉で、漢字や意味が分からない語句について、その場で辞書を活用して調べ、付箋を貼り、ノートに 2、3 回書いて覚えている高学年の姿を見たときは、「知りたいという好奇心が知識を吸収しているな。」と感じました。子どもたちは好きなこと、興味があることから学んで吸収します。毎日の学校生活で自身の好奇心を高め、様々なことにチャレンジして吸収していく姿を見ることが今後も楽しみです。

10月から後期に入ります。4月から自分なりに取り組んできた「自分を大切にする」取組を続け、自分を大切にするからこそ「相手を大切にできる」自分磨きの旅に出てほしいと思います。これからも自分を大切にする取組を続け、「自分は自分のままでOKなんだ」と再確認してほしいと思います。また、後期に新たな目標を掲げることも大切です。3月にどんな自分になりたいか考えるきっかけにしてほしいです。

「自分は飽きっぽい」「努力が続かない」などと思っている人もいるかもしれません。作家の松本清張も、とても飽きっぽい性格の持ち主でした。しかし、彼は飽きてくる性格を逆手にとり、「交換作業」といっていろいろなことを同時に取り組み、一つが飽きたら二つ目に取りかかることで、常に新鮮な気持ちで取り組むことができたといいます。作家のほかに、俳優にも挑戦するなど、好奇心旺盛でいろいろなことにチャレンジする方でした。いつまでもみずみずしい作品を書きたいと飽きっぽい自身の性格を知って、編み出した生き方でした。

小さな好きなこと、ワクワクすることを学校生活や家庭生活で見つけ、自分の性格をうまく生かしてチャレンジしていってほしいです。その姿こそが自分を大切にしている姿です。ご家庭や地域でも本人の素敵な面に光を当てて、伝えていただければと思います。引き続きよろしくお願いします。